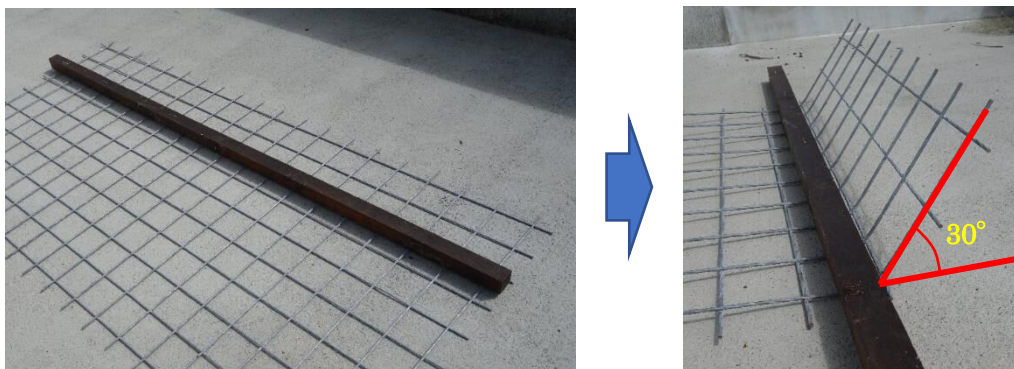


ワイヤーメッシュ柵の設置と管理

【作業手順】

- ① 必要に応じて忍び返しの加工を行います（イノシシ対策で有効）。

ワイヤーメッシュ（以下、メッシュ）の上部 20～30 cmを 30° ほど山側に折り曲げて、忍び返しを作ります。メッシュを折り曲げる際は、曲げたい場所に角材を置き、足で動かさないように固定しながら曲げるとキレイに加工できます。



- ② 防護柵を設置します。

<準備>

メッシュを効率的に設置するためには、事前に設置ルート of 整地作業をしておくことをおすすめします。作業性を考えて、20 cm くらいの幅で石や木の根、雑草などを除去し、スムーズに設置できるように準備しておくといいでしょう。

<搬入>

メッシュの搬入は、バケツリレーの要領で順繰りに奥へと送り込んでいく方法が便利です。送り込んだメッシュは、設置予定地に倒した状態で並べておきましょう。この時、メッシュの向きや倒す側（山側、谷側）などのルールを決めておくことで設置時の手間が省けて助かります。

<設置>

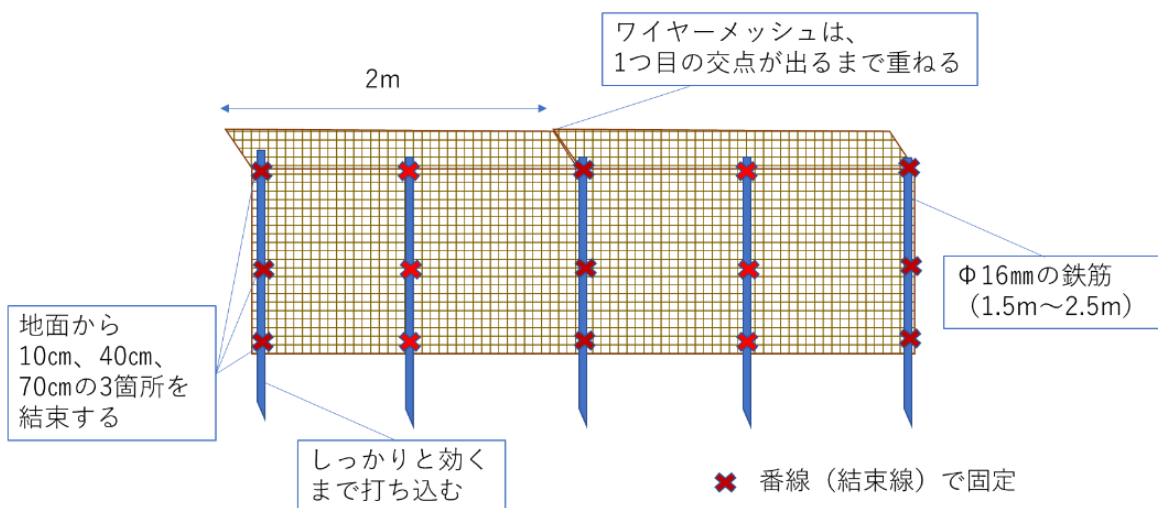
メッシュを並べて、各メッシュの両端に鉄筋（Φ16 mm）を打ち込みます。鉄筋は、忍び返しの折り返し位置くらいを目指して、しっかりと効くまで打ち込みましょう。この時、専用の打ち込み機があると便利です。

メッシュは、下側の耳（5 cm程度）が地中に埋まるくらいまで差し込みます。邪魔になる石や木の根があれば、除去するか、メッシュの干渉する部分を切断して、隙間ができないようにするのがポイントです。

メッシュを幅 2m の向きで設置する場合は、メッシュの中央部にも 1 本、補強用の鉄筋を打ち込んでおくことで、イノシシ等によるめくり上げを防ぐことができます。

続いて、打ち込んだ鉄筋とメッシュを番線で緩みなく固定します。番線の固定位置は、地面から 10cm、40 cm、70 cmが目安です。最下段の固定位置は、できるだけ地面に近い場所にすることで、強度を上げることができます。

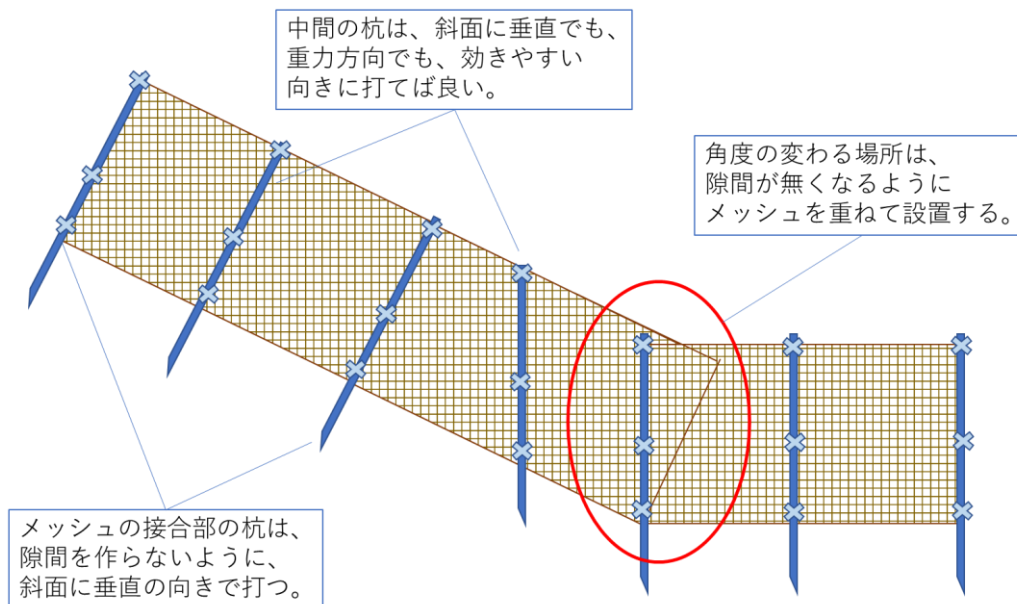
なお、鉄筋とメッシュの固定に結束線を使う場合は、必ずステンレス製の結束線を使うようにしてください。結束線は 2 本組で使うことで強度を上げることができます。



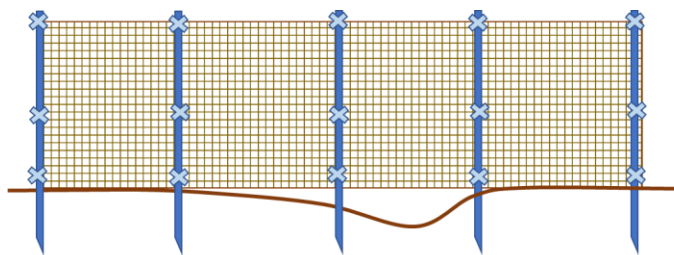
< 傾斜地や凹凸のある場所での設置方法 >

メッシュを傾斜地や凹凸のある場所に設置する場合は、以下の設置例を参考に、地面とメッシュの境に隙間ができないように工夫しましょう。

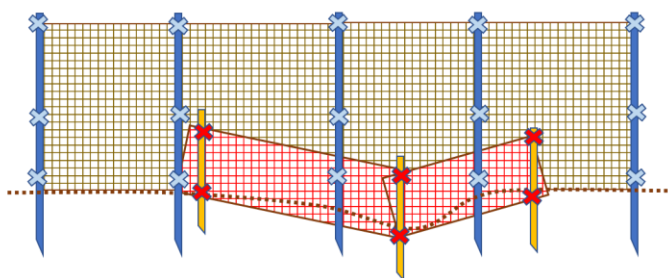
■ 傾斜地での設置例



■凹凸のある場所での設置例

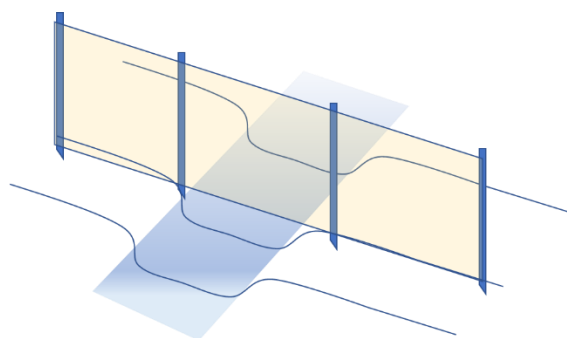


地面が凹んでいる場所は、
細かく切ったメッシュを
当てがって補強する。

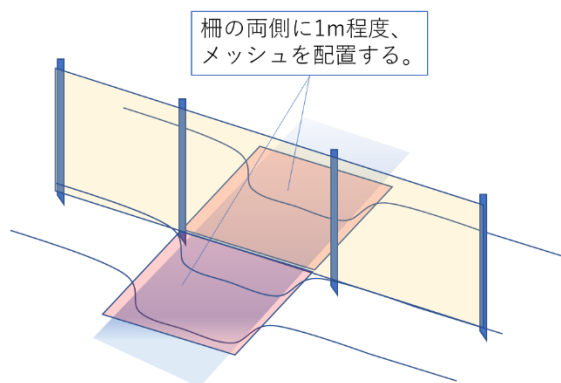


<谷川などを跨いで柵を設置する際の工夫>

谷川などの小河川を跨ぐ柵を設置する場合は、川の天井部をメッシュでふさぐだけでもイノシシ等の侵入を抑制する効果があります。

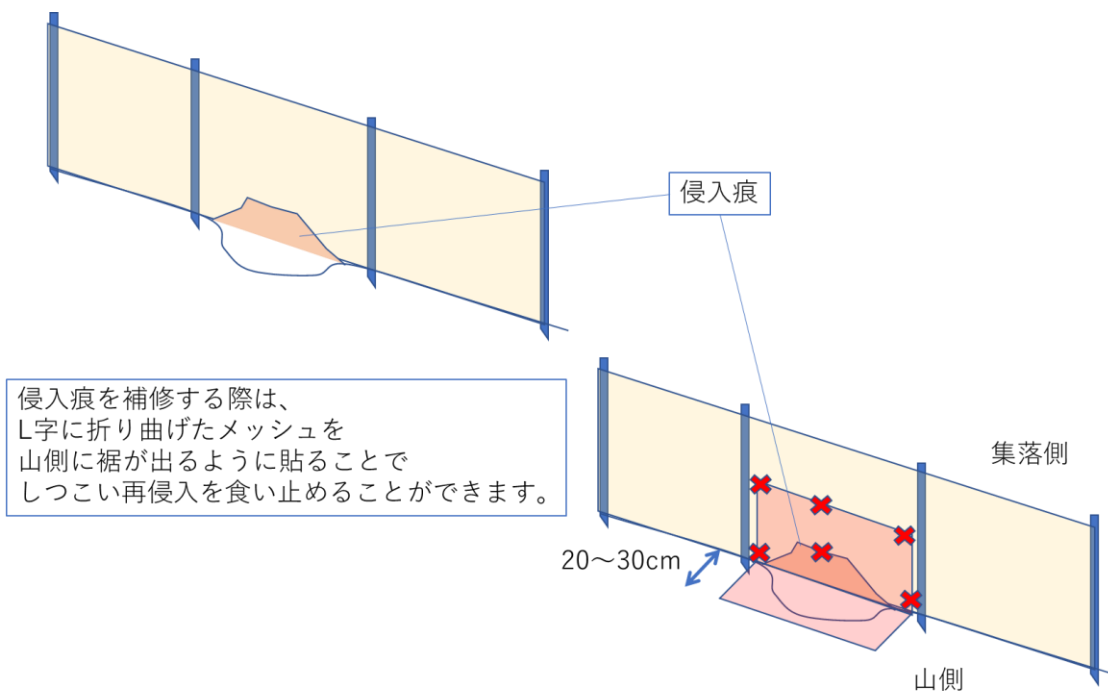


河川に構造物を設置する際は、
必ず河川管理者の許可を得て
ください。



【侵入痕の補修方法】

イノシシにメッシュをめくられたり、潜り込まれた場合は、できるだけ速やかに補修することが大切です。補修の際には、同じようにメッシュをあてがうよりも、L字に折り曲げたメッシュを当てて補強の方が効果的に再侵入を防ぐことができます。



【簡易扉の作成方法】

1. 地面から 20 cm、60 cmの部分で横筋を 1 本ずつ切り離す。
2. 切り離した横筋の付け根に扉の門(かんぬき)として用いる鉄筋やパイプをあてがい、輪になるように折り曲げる(右写真上)。
3. ペンチなどを用いて輪の大きさや形を成型したら完成!

メッシュを重ねて門を挿せば開かなくなります。

反対側にも同じ処理を施しておけば、より開きやすくなりますし、両端のパイプを抜けば、扉ごと取り外すこともできて便利です。

